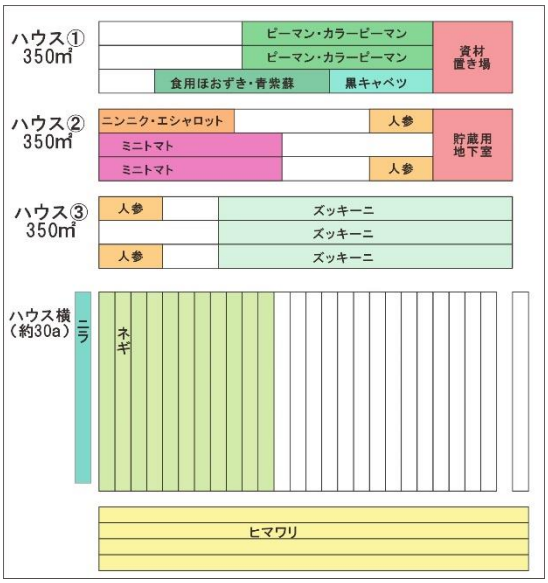
畑の今

初夏から秋の野菜の作付けが決まり、順次畝を立てて、種まきや苗の定植をしています。
今年は、近年赤さび病に悩まされている「ネギ」と、やけ症で表皮が黒くなってしまう「ゴボウ」の作付け場所を、例年より大きく変えてみました。結果の出るのは、半年後です。



ハウスのある畑

私たちの持っているハウスは、幅7.2m×長さ50mのものが3棟です。ハウスの一部を、資材置き場（ハウス①）や、貯蔵用の地下室（ハウス②）に利用しています。

夏野菜の中で、虫に食べられやすいピーマン、虫だけでなく鳥にも食べられるトマト・ミニトマト、雨に弱いズッキーニの3種類をハウスで育てています。

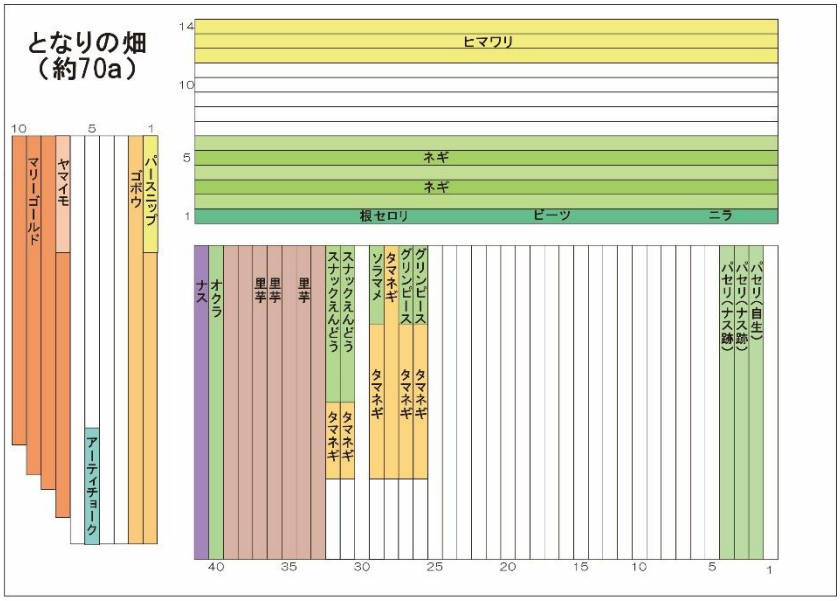
最近の夏は、気温が高い日が多くなり、夏のトマトは作るのが難しくなってきました。今年は、大玉のトマトの栽培は中止して、ミニトマトだけにしています。

「となりの畑」

ヒマワリのある方が上で、傾斜のある畑です。畑の土が流れないよう、等高線に沿った畝と、水はけがよいように、傾斜に沿った畝があります。

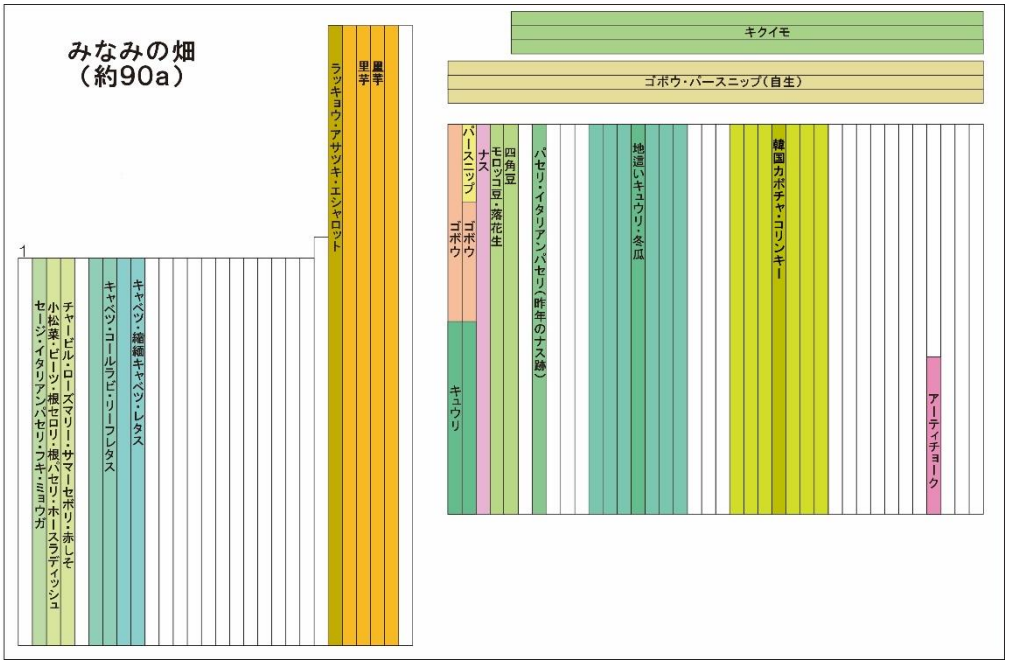
傾斜に沿った畝では、過湿を嫌う作物を、等高線に沿った畝では、水分が必要な作物を育てています。

作付けのない場所には、緑肥としてヒマワリとマリーゴールドを作ることにしました。また、色分けしていないところは、イネ科やアブラナ科の雑草が茂っていて、これをすき込んで緑肥にする予定です。



「みなみの畑」

南に面した畑で、私たちの畑の中では、面積が最も広く、日当たりも一番良い畑ですが、周囲が400m以上あるので、防獣柵の管理が一番難しい畑です。

面積が広いので、ツルが伸びて広い面積が必要な、冬瓜・韓国カボチャ・コリンキーなどを作ることが多いです。

図の左端から３～４畝は、周囲にある木の為に午後からは日陰になるので、暑さを嫌う野菜（フキやミョウガなど）を植えました。